

平成29年度第3回姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会（平成30年2月6日開催）

（仮称）稲城市姉妹都市・友好都市交流協会（以下「交流協会」という。）の「たたき台（骨子）」を基に組織の目的について意見交換を行ったところ、「地域国際化事業」を交流協会の対象事業とするか否かの議論がなされ、今後、継続して検討をすることとなった。

1. 組織の目的について

委員長・副委員長・事務局で作成した交流協会の「たたき台（骨子）」を元に、組織の目的について意見交換を行った。その中で、「地域国際化事業」を交流協会の対象事業とするか否かの議論がなされ、「国内交流委員会」「海外交流委員会」「地域国際化委員会」の3委員会制とするか、または「地域国際化委員会」を除いて、「国内交流委員会」「海外交流委員会」の2委員会制とするかで意見が分かれた。

（主な意見）

- ・交流協会は姉妹都市・友好都市との交流を目的としているので、「地域国際化委員会」は入れないという理解になる。
- ・「市民生活の向上」という視点を考えると、「地域国際化委員会」の在住外国人との交流も1つの要素になるため、あえて「地域国際化委員会」を抜く必要はないと思う。
- ・まず「国内交流委員会」と「海外交流委員会」で始めて、軌道に乗ってきってから、「地域国際化委員会」が入ってくるのが良いと思う。

- ・「国内交流委員会」と「海外交流委員会」だけで立ち上げても、年間の事業数が少ないため、「地域国際化委員会」の事業で国際交流に夢や魅力を感じて、交流協会の事業に参加してもらわないと組織が成り立たないと思う。
- ・市の制度にもホームステイの登録制度など色々ある。海外交流をするにも、そういった根っこがなければ組み立てが出来ないし、ホームステイや語学に関心のある方々に関わってもらうためのきっかけも作っておくべき。
- ・市民活動サポートセンターいなぎが市から委託されて、稲城国際交流の会に委託している2つの国際交流事業を、将来的に、交流協会へ委託することも選択肢として考えられる。
- ・「地域国際化事業」など、対象事業を広げておき、海外との姉妹都市提携に向けて進んでいくという方が、交流協会が成り立つのではないかと思う。
- ・「地域国際化委員会」も含めた3本柱でやっていくのが良く、それぞれ別の事業を行うなかで、連携すれば良いと思う。
- ・「地域国際化事業」と、在住外国人の「支援」は別にすべき。

2. 「地域国際化委員会」と稲城国際交流の会の関係について

また、前回の会議で「稲城国際交流の会で国際化事業を実施してきたが、会員の高齢化の影響もあるので、交流協会ができればそこに合流してやっていただきたい。」旨のご意見があったことを踏まえ、上記意見交換の中で、「地域国際化委員会」と稲城国際交流の会との関係についても意見交換がなされた。

(主な意見)

- ・稲城国際交流の会で実施されている事業については、既にもう十何年も続けておられるので、そのまま継続していただければ良いと思う。
- ・稲城国際交流の会はもう何年もやってきているので経験もあり、人材もあるので、そちらを外してゼロから始めて果たして何人の方がこの交流協会にも入ってもらえるのか疑問がある。
- ・市から国際交流事業を委託されている市民活動サポートセンターいなぎとして、今、稲城国際交流の会に委託している2つの交流事業を、将来的に、交流協会へ委託することも選択肢として考えている。
- ・稲城国際交流の会は、会員が高齢化しており、継続してやっていけるのかについては疑問を持っている。1年2年先には辞めざるを得ないということになるかもしれない。出来れば、交流協会と一緒にやっていきたいと思う。地域国際化委員会が交流協会の中にできるのであれば、稲城国際交流の会は解散して、地域国際化委員会に入ってその事業を継続していきたい。
- ・交流協会の事業として皆が関心を持って、活動に参加してもらうためにも、稲城国際交流の会を含めないとやりにくいのではないかと思う。

【結論】

今までの議論(「①平成27年度海外姉妹都市提携検討市民会議」、「②平成28年度海外姉妹都市検討市民会議」及び「③平成29年度(仮称)姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会」)で出てきた「地域国際化事業」に関する内容を整理し、検討を継続していくこととした。